



No.855 2023年 7月18日

国鉄労働組合東日本本部 港区新橋5-15-5 交通ビル7F 発行責任者 伊藤 隆夫 編集責任者 常盤 達雄

つなげよう次世代へ 届けよう私たちの思い 仲間が声を待っている

JR東日本 2023年夏季手当 2.5ヶ月+5万円 実質2.65ヶ月 前年比+0.35ヶ月

これでは物価上昇に追いつかない! これでは離職を止められない!

5月12日の「申し入れ」以降、行われた交渉では会社から「2022年度決算では黒字転換はしたが、目標の1000億円には届かなかった」などの厳しい認識が示される中、組合からは組合員の思いや組合未加入の若手社員のアンケートの声をぶつけてきました。

「給料が上がらず、ボーナスカットでやる気が無くなった」「希望にそぐわない遠方への転勤」などさまざまな意見が寄せられ、その声を会社につけてきました。

申し入れ・交渉と並行した取り組みとして、この間7本の「国労東日本・ダイジェスト版」を発行し、各分会の掲示板や情報つづりへの掲示や、各組合員へのメールなどで送信を行い、国労の考え方や情勢を組合員だけではなく、未加入者にも訴えてきました。

会社はこれからも「融合と連携」「権限移譲」という言葉を前面に出した一層の構造改革を進めてくることは必至です。今後も、東日本本部は職場にある不満を集約し、働きやすい職場づくり、制度づくりを通して労働組合の必要性を訴えて、組織強化・拡大に取り組んでいきます。

JESSに対しては、5月25日に「3.0ヶ月支給」を中心とした夏季手当の申し入れを行い、6月6日にJESS本社において交渉が行われ、東日本本部からは常盤執行委員、竹内特別執行委員（JESS中野島駅）、本間交渉委員（JESS武蔵増戸駅）、生方交渉委員（JESS鹿島田駅）が出席しました。

交渉冒頭、組合側からは「これまで毎年2.5ヶ月で夏季一時金申し入れを行ってきたが、今回は、大幅な物価上昇が続いていること、それに対し春闘時のベアが2000円しかなかったことに加え、離職者が相次いでいて賃金をアップさせなければ職場がもたない」などを主張し、あわせて、アンケート結果の内容もぶつけながら議論を行いました。

各社・グループ会社 2023夏季手当回答状況

Table with 3 columns: 会社, 本年回答, 昨年回答. Rows include JR東日本, JESS, LiViT, CTS, バス関東, バス東北, 貨物, 信州ロジ, 東北ロジ.

「黒字化」は社員の努力があつてこそ

JR東日本は6月7日「夏季手当などに関する申し入れ」第3回交渉において、2.5ヶ月+5万円（実質2.65ヶ月）の回答を示しました。

JESS 2.22ヶ月 前年比 +0.17ヶ月

LiViT 2.0ヶ月 前年比 +0.7ヶ月

冒頭、組合側からは「東北の未来を創造する企業とするLiViTが更に発展していくためには、働く社員一人一人が地元愛と知恵を発揮していくことが必要であり、そのためには、LiViTで働き続けたいと思える労働条件が必須」などの主張を行ってきました。

LiViT（東北総合サービス）に対しては、5月26日に「3.0ヶ月」支給を中心とした夏季手当の申し入れを行い、6月2日と13日に交渉を行ってきました。

その後、組合から、若手社員へのアンケート結果や物価高騰による生活実態、離職の状況などを示し、満額回答を求めました。

